

学校を飛び出して、
地元で活躍するオトナを取材しよう！

紆余曲折して、 今ここにいます

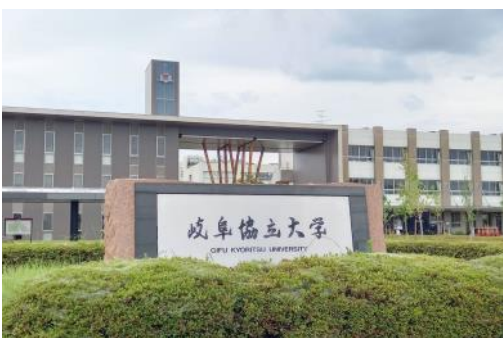
岐阜協立大学
教授 森誠一さん



岐阜協立大学で教授として活躍されている森誠一先生に、大学や進路などについて伺いました。

Q 岐阜協立大学とはどのような大学ですか？

この大学は地域に根ざした大学であることが大きなポイントで、「学びを地域で実践」がキャッチフレーズといえます。また、各教員の専門分野からの多様なアプローチから、社会の仕組みや課題を根拠にもとづき学び、その解決や将来像を検討する場が特徴になります。



Q 森先生の学科では、学生にどのようなことを学んでほしいですか？

人間中心的な見方と異なる、生物の視点から世界の多様な見方を知り、思考の幅を広げてほしいと思っています。同時に、命の尊さを感性に訴える内容を通して実感できるようにしています。私の講義を通じて、無知ほど怖いものではなく、根拠ある知識をつけ、さらに蓄積した知識から知力にし、それを合理的な行動に移していくには、どうしたらよいかをできるだけけアリティーをもつて学んでもらえればと思います。

Q 学校以外ではどのようなお仕事をされていますか？

一つ目は完全な専門的な研究です。複数の大学や研究機関等との共同研究を実施し、継続的に学会発表をしています。

二つ目は国・県市町の行政等の委員会活動です。例え

は何ですか？

小学生のとき父と行った本屋で読んだティンバーゲンさんの本に、ハリヨの同属のイトヨのことが書いてありました。そこには、巣を作り、ジグザグダンスをするといった興味深い行動パターンについて図入りで記載されており、ハリヨと同じような行動をするだろうと直感的に思いました。こういう変わった動物の行動が面白く刺激的です。さらに、私が高校生の時にティンバーゲンさんがノーベル賞を受賞しました。動物の行動研究が生物学の分野として確立されたことを知って、強く心に残ったのがさらに深みに入るきっかけです。

もう一つの大きなきっかけは、二十歳代の頃ハリヨについて書いた研究論文をティンバーゲンさん関係の研究機関元に送ったところ、それが国際学術雑誌に初めて載ったことです。

Q 大学卒業後の進路を決める時に悩みましたか？ またその経験を教えてください。

研究職にはいくつかルートがあつて、卒業と同時にスムーズに研究職に就ける人もいる一方、そうでない人も



Q 私は文系志望ですが、看護師になりたいと思っています。アドバイスをお願いします。

看護系に進むという明確に志望されているのであれば、私がどうこうっていうより、その進路に向かつて手順通り進めていけばいいと思います。あとは、そのモチベーションを維持することが肝要ですね。

看護の役割は治療の補助だけではなく、患者の精神面のケアもあり、これこそ看護師の独自の役割でしょう。

例えば子供に「痛いの痛いのとんでいけ」ということをしてくれるのは看護師です。それは簡単なおまじないではなく、言われた方の気持ちと和らぐ効果が検証されて

ば、109本の一級河川それぞれの川づくりの方向性を定める国交省の委員会に参加しています。

三つ目は啓発的なものです。本や雑誌の記事を書いたり、小学校を含め多様な場で講演活動等を行っています。

Q 池田高校は森先生と関わりがあることを知りましたが、具体的にどのようなものですか？

池田町上八幡にある八幡池は、ハリヨが生息する池として県の天然記念物に指定されています。私は、この地に学生時代からしばしば調査にきています。ここ数年、池田高校の生徒さんには個体数調査等の作業のお手伝いをしてもらっています。外来種の駆除も含めて、生息地が地元にある池田高校がハリヨ保全に関与しているのは大変嬉しいことです。

Q 今の池田町の環境はどのような感じですか？

一九八〇年代はヘドロで池も川も埋まつて、ほとんど流れのない土砂のてんこ盛り状態でした。しばらくは何も環境は良くなり、池田町教育委員会の文化財審議会を中心に改善に向けて何年も議論をしてきました。

その結果、県土木部局の方で治水安全上の促進も目的として池や川底の泥を取り除いてもらい、今のよう状態になつて、湧き水も戻りハリヨも増えてきました。

この時期の町文化財審議会や教育委員会の尽力は大変効果的でした。しかし問題は解決されたわけではなく、引き続きハリヨを守る会などで審議し、八幡公民館で地元の方と池田高校の生徒を含めて問題を共有し、どうしたらよいかを議論しているところです。なので、すごく良くなつていないけど、すごく悪くなつていない状況ですね。

Q ハリヨを研究するにあたって興味を持たれたきっかけ

います。ここには文系的要素が多分にありますね。

つまり文系を選択しても、看護師のために役に立つ文系分野はあると思います。その辺は自分自身で取捨選択していけばいいのではないかなと思います。



【感想】

私は今回のインタビューを通してたくさんのお話を学ぶことができました。森先生のお話は私にとつてとてもためになる話ばかりでインタビューをしていてとても楽しかったです。私自身、文理選択の時にすごく悩んで、家族や先生方とたくさん話し合い悩みに悩んで文系に決めました。私の将来の夢が看護師ということもあつて本当に文系で良かったのかと思うことがありました。でも、森先生のお話を聞いて、看護師はけがを治すだけじゃなくて精神面のケアもあるのでその面では文系のほうが良かったりすると知ったので安心しました。とくに文系は、小説や本とたくさん触れ合うのでその中で人の気持ちを考えることができるようになったり気持ちの和らげ方を見つたりできると思うので良かったです。これから先はもっと大変でいろんな選択をしないといけないといけないかなと思います。それでも自分の選択は間違つてなかったと思えるように自分を信じて勉強を頑張っていきたいです。